

逍遙館長のところ

「あるべきリーダーの条件とは、のころ」

5月24日 逍遙^{逍遙}

明日5月25日は、木曾川治水工事の総奉行を勤めた薩摩藩家老、平田靱負が、幕府の工事完了確認の翌日、薩摩工事役館（現岐阜県）にて亡くなったとされる日です。翌月、当時の薩摩藩主・島津重年も心労等で病没しました。

この工事、名目上は氾濫被害多発の木曾三川に係る御手伝普請とされましたが、実際は琉球貿易による薩摩藩の財力を警戒した幕府が命じた、薩摩藩にとっては極めて理不尽なものでした。多くの反発の中、平田は「民に尽くすもまた武士の本分」としてこの難工事にあたりましたが、藩士以下約千人の労力と約1年3ヶ月の歳月、約40万両の経費、さらには80余名にのぼる犠牲者（自害・病死等）など、薩摩藩にとっては大きな打撃となりました。

平田の命日には、彼の屋敷があった現・平田公園（鹿児島市平之町）で、岐阜県側も出席して毎年「薩摩義士頌徳慰霊祭」が行われています。

時代も異なり、勿論一概には言えないでしょうが、平田靱負のような気概と覚悟、そして責任感を持つリーダーが今、果たしてどれだけいるのでしょうか。

◎ 次回の予定「リーダーシップと組織マネジメント、のころ」

